

本年の干支は「乙羊」（きのとひつじ）・・・

岐阜県で「ヤギさん除草隊」に取り組む青年がいる。約30頭のヤギが草刈りに応じた日当で、公園や里山、工場の緑地帯を請負うのである。これは、市・大学との協定による里山再生プロジェクトであるが、ヤギさんを社員として、お互いの共存と環境づくりを目指している。草刈り機と比べ、草の頭を食べそろえた光景は、大変上品で環境にも優しいものを感じた。彼は、このほかに奥飛騨にドラゴンフルーツ、美濃加茂でアセロラの栽培も行っている。建設業から転身し、共存と循環をテーマに、農業者としてできる範囲での地域貢献を目指す姿に、新たな農業スタイルを感じた。（常務理事 藤本人寿）

## 【地域開発部】

### 「飼料用米先進地の現地調査を実施しました」

『開発機構だより』平成26年度秋季号でご紹介した「高収益型畜産体制構築事業のうち畜産クラスター実証支援事業」として、12月3日・4日にJ A北魚沼（新潟県）とJ A真室川（山形県）へ飼料用米の生産・利用に関する調査を行いました。そこで、J A真室川の粳米サイレージへの取り組みと町営秋山牧場による預託牛への給餌の事例をご紹介します。

J A真室川は、山形県の最北端に位置し、県内有数の豪雪地帯です。地域内には新庄盆地が広がり、最上川の支流が流れているため、稲作が盛んに行われてきました。平成20年度から米生産調整の緊急拡大配分対策として、飼料用米を粳米サイレージに加工する取り組みをはじめました。平成24年度の作付面積は72ha、75戸の耕種農家が作付けしています。

収穫された生粳は、J Aのカントリーエレベーターにあるプレスパンダー（粳穀蒸砕膨軟化装置）で加工し、水分調整と添加飼料を加えます。その後、脱気・梱包してサイレージ調整を行い、2か月ほど発酵調整すると製品になり、真室川町内の14戸の畜産農家へ供給しています。

町営秋山牧場は、周年預託施設（平成25年度：和牛繁殖117頭、乳牛育成15頭、利用農家20戸）を備えており、J Aで作られた粳米サイレージに牧草サイレージと規格外大豆を主原料にした発酵TMRを製造し、預託牛に給餌しています。この発酵TMRは、年間を通じて利用が可能であるため、預託牛の嗜好性が安定し、受胎率が大幅に向上しています。さらに、粳米サイレージの利用拡大を図るため、町内農家の和牛仔牛（6か月～10か月用）への販売においても、嗜好性が高く、配合飼料よりも安価なため、預託施設利用者から高い評価を得ています。

今後も近隣農家と協力し、地域自給飼料の生産と利用をさらに拡大させ、地域の輪で真室川町ブランド和牛を作ることを目指しています。（ 研究員 坂知樹 ）



## 【人材銀行局】

### 「平成26年度 派遣等職員研修会を開催いたしました」



小松淳子講師

平成26年度派遣等職員研修会を11月21日（金）、長野県JAビルにおいて90名を越す多数の参加者を得て開催いたしました。当研修会の獲得目標として、1. 法令順守の徹底 2. 健康管理 3. 労災事故の防止、以上の3点に重点を置き、参加者全員の下、確認をいたしました。

研修会の講演では、まず、「年金契約の概要について」日本年金機構の武山課長より、年金の受け取りまでの詳しい説明をお聞きし大変理解が深まりました。また、長野県厚生連篠ノ井総合病院看護部の小松淳子看護師から「ドック受診ポイントと健康管理」と題し、健康管理は日々の生活習慣の積み重ねを基本とした健康寿命を延ばす日常生活について、とても有意義なお話をお聞きしました。

### 『頑張ってます。派遣等職員』

黒河内 浩 さん



平成18年度から、(株)信州農協施設、伊那地区担当として、日々、共栄火災代理店の保険契約更改を一手に引き受けて頑張っています。

また、兼業農家でもあることから、最高級の「コシヒカリ」を毎年4反歩の水田で作っておられます。

毎年10月頃には、ダイヤモンドのように輝いている、美味しい新米を食されているんでしょう。うらやましい。

### ～編集後記～

年が明け、まだ来ぬ春が待ち遠しく感じられる今日この頃です。

昨年、県下におきましては、度重なる大きな自然災害が発生し、多くの方々が甚大な被害を受けました。地震、火山噴火等・・・自然の摂理に抗うことは出来ませんが、大きな自然災害が起きないことを祈念しつつ、災害時の安全確保についても日常的に留意しなければと思います。

新春早々ではございますが、本年もよろしくご指導、ご協力をお願い申し上げます。

年度末を迎え当機構も、26年度の総括に向け日々事業推進に努める毎日です。

皆様のご意見、ご要望をいただけたら幸いです。(Y)

<発行所>

一般社団法人 長野県農協地域開発機構

長野市大字南長野北石堂 1177 番地 3 JA 長野県ビル 11 階

TEL 026 (236) 3500 (代表) / FAX 026 (236) 3505